

山形県 大江町商工会

## 「婚活」を商工会がサポート

人口減が進む町を何とかしたいと、商工会（若月孝会長）は昨年度から「婚活 スキルアップのサポート事業「ハローマリッジ倶楽部（クラブ）」（略称 HMC）を開催している。二〇一〇年度も引き続き実施予定で、倶楽部の会員を随時募集している（居住地・性別・年齢不問）。

昨年八月から会員を募集し、商工会副会長の蝶谷社長・伊藤篤市さんが講師となつて、毎月一回例会を開催。会話の進め方や服装などについて学びため、参加者は「婚活の練習場」として会員の前で練習相手の女性と話したり、気づいた点をお互いに指摘し合う。理容師による「見た目」へのアドバイスなども行っている。



十一月には町交流ステーションで四回目の例会が開かれ、一月三十日には商工会が開催する「出会いパーティー」でも学んだことを生かす。他地域との連携も検討中で、伊藤副会長は「口下手な男性は出会いの場に参加しても、連絡先を交換するなど次のステップにつながりにくい。聞き上手になったり相手の長所に気づいて褒めるなど気配りが大切では」と話している。

群馬県 富士見市商工会

## 「幻の大根」復活でまちおこし

富士見の伝統野菜「時沢大根」を復活するプロジェクトが進んでいる。地元の久保田厚さんが代々守ってきた時沢大根の種を狩野亮一商工会副会長が譲り受け、有志らが昨年八月から種まきや草取りに汗を流してきた。

時沢大根は前橋藩主にも献上されていた極上の大根で、地元の「富士見かるた」にも「県下の名産」とつたわれている。全体が白くて真ん中から先の部分が太く、時沢地区の軟らかい火山灰地で育つ皮の薄さが特徴。戦後は川崎市場に出荷され、「おいしい大根」という定評があった。



農家が種苗メーカーから改良種を購入するようになった昭和半ばに生産が減り始め、最近では地元の人でも食べたことがない「幻の大根」となっていた。そこで、商工会は「時沢大根のブランド化」で地域おこしをめざしている。

十一月末には、一回に分けて約四〇〇〇本の収穫を行った。水洗い、柵に吊るしての天日干しを経て、十二月中旬からたくさん用として販売した。今後は時沢大根の栽培や加工に詳しい「隠れ名人」も発掘して、たくさん漬け、切り干し大根などのほか、おいしい食べ方を研究していく。

富山県 商工会連合会

## 省エネ簡易診断で経営改善

県連は、昨年十月から、会員事業所を訪問して作業工程を省エネの観点から検証する「省エネ簡易診断」を開始した。

診断員を務めるのは県内大手製造業の退職者で、電気設備に詳しい一〇人。省エネや作業改善に取り組んできた経験を生かしている。電気設備の管理は専門的なことが多く、中小・零細企業では資金や人材面でなかなか省エネが難しい。



主任専門経営指導員・本多光一さんは、「お金をかけずに効果を出せる」と好評です。省エネは小さなことの積み重ねで、意外に簡単にできることや、すぐできる対策もあります。経営の見直しにもつながるので、簡易診断を通じて経営改善のお役に立ちたいと思っています」と話している。

鹿児島県 さつま町商工会

## 子育て支援商品券を販売

十二月一日、町内商工会加盟店を中心に使える子育て支援プレミアム付き商品券「子ども健やか商品券」の販売が始まった。

子育て支援と地元商店街の利用拡大を図ろうと企画されたもので、特典分六〇〇万円を町が負担している。



中学生以下の子どもを持つ三〇八四世帯が対象で、一人につき五〇〇円券一二枚つづりを五〇〇〇円で販売。二口まで購入でき、入学・進学シーズンのニーズに対応するため、有効期限は三月十五日まで。

## 能登の味、映像グランプリで最優秀賞



商工会、北陸メディアアセンター・ネスクなどで作る「能登の魚醤油『いしり』物語」と題したDVDは、全国各地映像団体協議会の「全映協グランプリ二〇〇九」で短編・産業部門最優秀賞「経済産業大臣奨励賞」を受賞した。各地域の予選を通過した二四作品の中から選ばれた。

十一月二十一日には「全映協フオーラム二〇〇九」（千葉市・幕張メッセ国際会議場で開催）で表彰式が行われ、関係者は喜びをかみしめていた。

## 大分県 豊後大野市商工会青年部

## 市政にももの申す！市と意見交換会

商工会青年部（角田英之部長）は、市政をより良くしたいと、市に要請して市長ら市執行部に意見を述べる「意見交換会―市政にももの申す！―」を開いた。活発な意見交換ができるよう、議会のように質問と答弁というスタイルにした。

三重町のホテルで開かれた意見交換会



田部長が挨拶、橋本祐輔市長は「皆さんの意見をどう反映させるか考えたい」と挨拶した。その後、青年部を代表して八人が市における商工業の発展や市職員の現状などについて質問。市は、議会開催時のように関係部長が控え、答弁書も準備し、担当部長が答弁した。

「公共事業に地元業者を使う明記はできないのか」「地元優先が基本だが、業者数が足りないときはやむをえず市外業者を入れていい。明記できるか検討したい」といつやりとりや、「市からサービスクラス的な見積もり依頼が時々ある。公平性が保たれないのではないか」といった質問が出た。

## 抽選券付き商品券で夢大賞ゲット？



地域経済振興と購買促進のため、商工会（林茂樹会長）は最高三〇万円分の商品券が当たる抽選券付

き商品券の販売を行なった。年末の買い物券の販

を意欲し、十二月十八日まで商工会本所・各支所

販売した。今春に市がプレミアム付き商品券を発行

したが、商工会独自としては全国的にも珍しい企画。

商品券一枚を購入すれば抽選券が一枚つく。最高

の夢大賞三〇万円三人のほか、一〇万円、一万円、

五〇〇〇円、一〇〇〇〇円の商品券の当選者数は売上

によって増やし、商品券は市内五〇〇店舗で使える

仕組み。うち三〇店舗では独自のくじも用意した。

## 福井県 福井北商工会

## 隠れ名所探して着地型観光ツアーを

都市の旅行社が企画する「発地型」旅行ではなく観光地側がテーマを設定する「着地型」ツアーが脚光を浴びる中、商工会は「ブランドリバー九頭竜川と日本海のおいしい旅」と題した試験観光ツアーを行った。モニターを兼ねて県内の一般の人を募り、十二月六日から七日まで一泊二日で行った。鷹巣観光協会、地元伝統文化保存会などと半年ほどかけて準備した。

約二〇人の参加者は、一日目は北前船交易が盛ん



だった時代の石切り場、初めて観光客を受け入れる酒蔵や菓子工場などを訪問。二日目は国指定無形文化財の「仏舞」が伝わる糸崎寺、ハウス栽培農家の見学など、地域色豊かなプランを体験した。

市無形文化財「免鳥夜網節」の披露会で飛び入りで踊ったり、ガイドブックには載っていない隠れた名所や地場食材を使った料理を堪能する試験ツアーに、「普通は見られない場所を見られてよかった」「こんな歴史があるとは知らなかった」という評価の声があがった。

「観光客慣れしていないためか、説明がたどたどしかった」「立派な施設がうまく活用されていないので、ひと工夫を」という声もあったことから、今後の商品化へ向けてさらに検討していく。

## 第155回 全国商工会珠算検定試験一級満点合格者



山辺 一輝  
岩倉市商工会  
名和学園



三浦 彰子  
浅羽町商工会  
大石珠算浅羽上教場

秋田県

潟上市商工会

# 検定で郷土の伝習士を認定

十一月二十二日、商工会（菅原三朗会長）が地域活性化をねらって行っている「あきた愛しやの郷づくり事業」の一環として、「石川理紀之助翁検定」を実施した。石川理紀之助（一八四五〜一九一五）は、市内豊川地区の通称「草木谷」で農業経営を実践しながら、県種苗交換会を設立したことでも知られる郷土の偉人。



会場の郷土文化保存伝習館には、市内外から小学生七〇代まで幅広い年代の二九人が参加し、検定の前に館内の資料や草木谷を見学した。昼食には、豊川地区内産の新米のおにぎりや、理紀之助が一八九二年に凶作対策に設けた「備荒倉」に貯蔵されている米で作ったおにぎりを提供した。

検定は、理紀之助の功績や理紀之助が残した「寝ていて人を起こすこと勿れ」という言葉の意味についてなど一問のテストと、見学会の感想文を併せて採点。参加者一九名全員が「石川理紀之助翁伝習士」に認定された。商工会は認定した伝習士全員の名前を伝習館内に掲示し、また、来年度以降も検定を実施する予定。

岡山県

岡山北商工会女性部

# 田舎で暮らそう！ 交流ツアー実施

一宮、津高、上道、御津、建部の五地域で構成する岡山北商工会女性部（鷹取明美部長）は十一月八日、建部地区で移住希望者との初の「交流ツアー」を開いた。



田舎暮らしを希望する人の定住を促進し、人口増につなげるのがねらいで、県内外からの移住希望者に管内を紹介する「定住促進事業」の一環。今回は移住希望者を建部地区に案内し、すでに移住している人の協力も仰いで実施した。

昨年九月に県が大阪府で開催した「晴れの国おかやま交流・定住フェア」に訪れ、関心があるという二組二五人を招待し、女性部建部地区の有志グループ「たけべこられえS」が案内。地区内に家を建て週半分の過ごし方している信山安さんを訪れた女性部メンバーは、ホテルが棲み、温泉もある住みやすさをPRした。

奈良市からの参加者は「すばらしい環境で、交通の便もいいですね」と反応も上々。鷹取部長は「岡山に住みたい人を増やすため、今後も各地区の情報を積極的に発信していきたい」と話していた。

福島県

鏡石町商工会女性部

# 地元産品でパスタのレシピづくり

町の特産品を生かしたメニューの開発に取り組んでいる商工会女性部（仲沼登美子会長）は、十一月に三回目の学習会

を勤労青少年ホームで開催した。



「コミュニケーション支援事業として女性部特産品委員会八人が取り組んでおり、パスタを研究中。講師には、農林水産省から地産地消の仕事を認めている県

内猪苗代町・ヴィライナワシロの総料理長・山際博美さんを迎えている。

パスタは、小麦粉に地元産の米粉、町を代表する産品のイチゴのピューレを加えて仕上げている。優れたメニューを商工会会員の飲食店で商品化し、提供していく予定だ。

この日は、地元産のマッシュルームのソース、リンゴと野菜のレモン風味、エノキダケの醤油風味、トマトソースの四メニューを山際さんのアドバイスで作り、試食した。粉の配合割合、麺の太さ、若者にも好まれる味付け、ネーミングについてなど、活発な意見が飛び交っていた。